

# 環境都市宣言

## ～トンボ飛び交うまち さが～

市をあげて環境問題に取り組み、佐賀市の豊かな自然を未来の子どもたちへ引き継いでいくために、平成22年2月13日に「佐賀市環境都市宣言」を行いました。

宣言で表明した決意をすべての人が実践できるように、市は市民や事業所等と連携・協力しながら、環境への取り組みをより一層推進しています。

### 佐賀市環境都市宣言

#### ～トンボ飛び交うまち さが～

水と緑の脊振山(せふりやま)  
春は麦、秋は稲穂の佐賀平野  
干潟広がる有明海

この恵まれた自然の中で、わたしたちの先人は、棚田を開き、クリークをめぐらし、漁に励んで、毎日を懸命に生きてきました。それは自然の恩恵を受けながら、同時に自然を守る生活でした。

ところが今、地球は温暖化をはじめ、大気や水の汚染など、生きものの生存が脅かされる事態になっています。もはや環境破壊はひとごとではありません。

わたしたちは、一人ひとりが環境に対する責任を自覚し、この豊かな自然を守り、育て、未来の子どもたちに伝えていくことをここに宣言します。

- 1 わたしたちは、環境について真剣に学習します。
- 1 わたしたちは、未来の子どもたちのために今できることを考え、話し合います。
- 1 わたしたちは、身近な環境も地球の環境も、ともに守るよう努めます。
- 1 わたしたちは、世代や立場を超え、すべての人とともに行動します。

平成22年2月13日 佐賀市

## ゼロカーボンシティさがし

「ゼロカーボンシティ」とは、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを公表した自治体のことを指し、環境省が全国の自治体へ表明を呼びかけています。本市においても、行政と市民や事業者等が一体となって地球温暖化対策の取り組みを進めるため、「ゼロカーボンシティさがし」の表明を行いました。目標達成に向け、これまで取り組んできたごみ減量や資源の有効活用、再生可能エネルギーの普及などの環境配慮の取り組みをさらに発展させ、地球温暖化の防止に取り組んでいきます。



中央の「S」は、持続可能な (Sustainable) 佐賀市 (Sagashi) へ 転換 (Switch) するという意味を込めています。



### 「ゼロカーボンシティさがし」 ～2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～

近年、世界各地では猛暑や豪雨など地球規模での温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、日本国内においても、これまで経験したことのない豪雨や台風等により各地で甚大な被害が発生しています。このまま地球温暖化が進行すれば、「気候非常事態」とも言うべき極めて深刻な状況となり、人々の生命や財産を脅かし、生態系に甚大な影響が及ぶことが懸念されます。

このため 2015 年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5 度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。この目標達成には「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

佐賀市は、2010年に「環境都市宣言」を行い、2014年に「バイオマス産業都市」に認定され、2015年には東よか干潟が「ラムサール条約湿地」に登録されるなど、環境との共生に配慮したまちづくりを進めています。

その取り組みとして、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を分離回収し藻類培養や農業に活用するCCU事業、また、電力の地産地消、再生可能エネルギーの普及など、環境と産業の統合的向上を目指しています。

これらの取り組みを引き継ぎ、次の世代に持続可能な地球を残すために、本市では2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティさがし」を目指し、市民や事業者等と一体となって脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいきます。

令和2年10月20日

佐賀市



# パートナー制度・環境月間

## ゼロカーボンシティさがし推進パートナーについて

佐賀市は、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、令和2年10月に「ゼロカーボンシティさがし」を表明しました。この実現のためには、それぞれの立場でできることから行動を始めることが必要です。

この一環として、脱炭素社会の実現に資する取組を実施する事業者又は団体を「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー」として認定し、事業者の表彰や脱炭素経営事例視察会の開催など、一緒になって脱炭素の取組を推進しています。

## ゼロカーボンシティさがし推進パートナー表彰

「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー」を表明いただいた事業者の中から、特にほかの事業者の参考となるような素晴らしい取り組みを実施されている事業者の表彰を行いました。



【令和5年度表彰】※敬称略

- グッドパートナー賞 株式会社佐賀銀行
- グッドモデル賞 株式会社KMT e c
- グッドチャレンジ賞 株式会社シグマ

## 脱炭素経営事例視察会（バスツアー）

企業の脱炭素経営を推進するとともに、互いの交流を図ることを目的として、「脱炭素経営事例視察会」を開催しました。

日 時 令和5年11月16日

視 察 先 リコージャパン株式会社熊本支社

視察内容 脱炭素経営に関する取組事例

- ・ZEB の導入（「Nearly ZEB」認証取得）
- ・新たな働き方に合わせたオフィスづくり など



## 環境月間の取組

6月の環境月間に合わせ、市役所1階市民ホールで環境パネル展を開催しました。

パネル展期間中には、家庭で余っている食品を寄付するフードドライブが2日間実施されました。



# 環境マネジメントシステム

佐賀市は、率先して環境に配慮した活動を行うために平成 14 年 3 月に環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証を取得し、継続的な取り組みを実施するとともに、市内の事業所にも環境マネジメントシステムの導入を呼びかけてきました。

平成 22 年度からは、佐賀市独自の環境マネジメントシステムを運用し、更に取り組みを進めています。

## 「環境マネジメントシステム」って何？

組織が環境改善の方針や目標を設定し、継続的に環境保全に向け取り組んでいくための計画・体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。  
代表的なものに、国際標準化機構が制定した国際規格である「ISO14001」や環境省が作成した「エコアクション 21」などがあります。

## 佐賀市環境マネジメントシステムにおける主な環境保全活動

### 【電気の使用抑制】

- ・ 不使用電気機器の電源切り
- ・ 空調の適正運転 (冷房 28℃、暖房 20℃)
- ・ クール・ビズ、ウォーム・ビズの実施
- ・ 昼休みの消灯
- ・ エレベーターの使用自粛 (上下 3 階以内は階段使用)
- ・ 残業時の照明の最小限化

### 【ガソリン・軽油の使用抑制】

- ・ 通勤時のマイカー使用の抑制 (自粛)
- ・ 近距離の庁用自動車の使用抑制
- ・ 相乗りの励行
- ・ エコドライブの徹底 (アイドリングストップの実施など)
- ・ 公共交通機関の利用

### 【ガスの使用抑制】

- ・ 給湯の適正管理
- ・ 冷温水発生器・風呂用ボイラーの定期的メンテナンス

### 【省資源行動の推進】

- ・ 事務用品の共有化
- ・ マイバッグの持参
- ・ グリーン購入の推進

### 【廃棄物の排出抑制】

- ・ 個人ごみ箱の撤去
- ・ 紙のリサイクル
- ・ 分別回収の徹底



職場のごみは 13 種類に分別しています

### 【紙の使用抑制】

- ・ 両面コピー・両面印刷の徹底
- ・ 裏紙の利用促進
- ・ 庁内 LAN 等による資料の共有化
- ・ ペーパーレスの推進



裏紙利用の紙と両面使用済の紙は分別しています

### 【水道水の使用抑制】

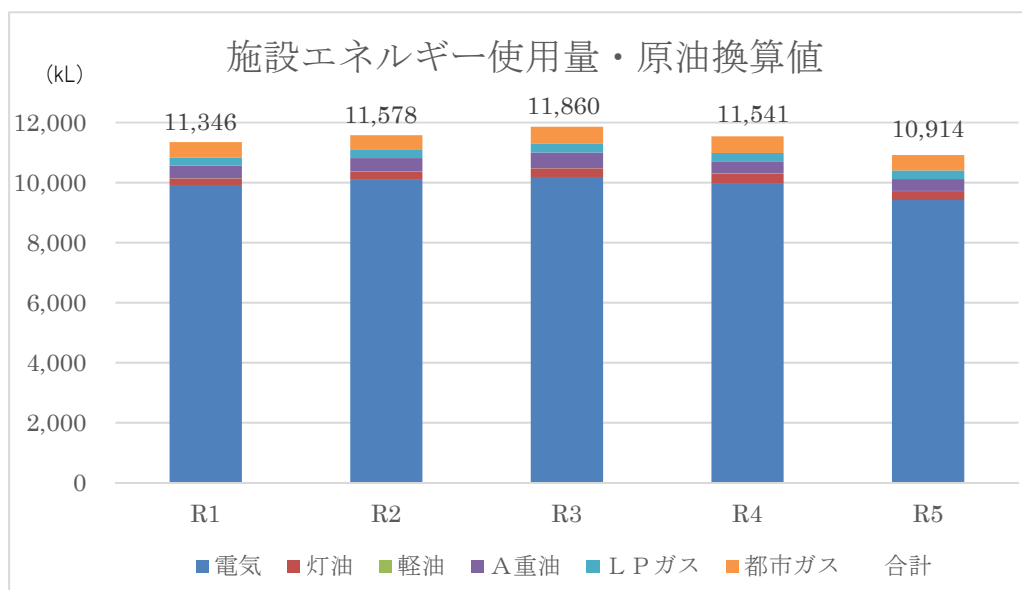
- ・ 水道水圧の適正管理
- ・ 日常の節水励行

【事業による環境負荷の低減】 ・ イベント開催時の環境配慮 ・ 公共工事の環境配慮

# 環境マネジメントシステム

## 令和5年度の取り組み結果

- (1) 対象期間 令和5年4月～令和6年3月
- (2) 対象範囲 市役所本庁舎、支所庁舎（諸富・大和・富士・三瀬・川副・東与賀・久保田）、図書館、青少年センター、清掃工場、下水浄化センター、衛生センター、交通局、上下水道局、富士大和温泉病院など（指定管理者制度導入施設を含む）
- (3) 対象者 全職員（会計年度任用職員等を含む）
- (4) 取組状況 全庁共通の取り組み目標のうち、「コピー用紙購入量」については前年度に比べて4%減少となりました。「職場排出物の削減」については、11%の減少。「施設エネルギー（電気、ガス等）使用量の削減」は、使用量を原油に換算すると、前年度比約5%の減少となりました。「自動車燃料使用量の削減」については約3%増加、「グリーン購入」については、達成率94.9%となりました。



### ◇ 原油換算値算出方法

原油換算値 (kl) = エネルギー使用量 × 単位発熱量 × 0.0258 (原油換算係数 [kl/GJ])

※エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律施行令第2条第2項及び同施行規則第4条に基づいて算出しています。

## 環境経営認証の取得促進

事業活動による環境負荷の軽減と温室効果ガス排出量の削減を図り、脱炭素社会の推進に寄与するため、エコアクション21やISO14001等の環境経営認証の取得及び「再エネ100宣言REACTION」への参加に取り組む市内の事業者に対し、佐賀市からその費用の一部を助成しています。

### 「環境経営」って何？

環境経営とは、企業が環境保全を重視した経営戦略を立てて企業としての社会的責任を果たす経営手法で、環境問題に対して積極的な取り組みを行うことで企業の持続的な成長に繋げていこうとする考えです。

環境経営のメリットは企業の社会的責任を果たすことや企業価値の上昇など多岐にわたります。ISOなどの国際規格取得や企業価値の向上のみに留まらず、公共入札における評価優遇や補助金支給など経営全体に対して良い効果をもたらします。

例えば環境経営認証の一つである「エコアクション21」は、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合したものであり、エコアクション21に取り組むことにより、中小事業者でも自主的・積極的な環境配慮に対する取組が展開でき、かつその取組結果を「環境活動レポート」として取りまとめて公表できるように工夫されています。

# 第2次佐賀市地球温暖化対策実行計画

## 第2次佐賀市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

### 計画の概要

1. 目的 市役所の事務・事業に伴い排出される温室効果ガスの削減等に取り組み、環境負荷の少ない持続的に発展する低炭素社会の形成を図る
2. 計画期間 2016年度～2024年度
3. 基準年度 2013年度
4. 対象範囲 本市が実施する全ての事務・事業
5. 対象となる温室効果ガス 二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン等
6. 温室効果ガス排出量の削減目標 2024年度までに2013年度比で13.3% (9,317t-CO<sub>2</sub>) の削減

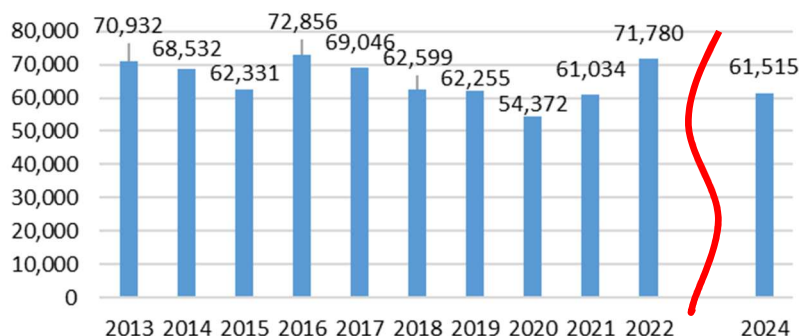
### 排出要因別の削減目標

佐賀市環境マネジメントシステムを運用し、庁用自動車の使用抑制、資源の有効利用、省エネルギーの推進、職場から排出されるごみの減量等の環境行動を定め、実施に努めるとともに、佐賀市一般廃棄物処理基本計画や佐賀市バイオマス産業都市構想等の関連計画に基づく取組を計画的に実施します。

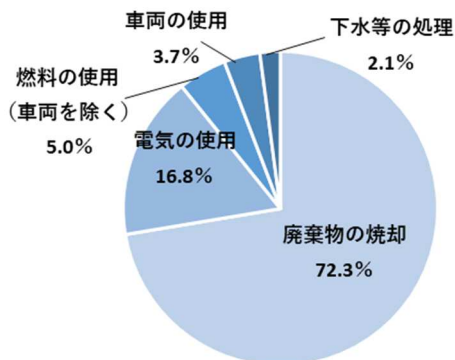
排出要因	2013年度の温室効果ガス排出量の実績 (t-CO <sub>2</sub> )	2024年度の温室効果ガス排出量の目安 (t-CO <sub>2</sub> )	増減率
廃棄物の焼却	37,437	35,610	△4.9%
電気の使用	24,760	18,056	△27.1%
燃料の使用 (車両を除く)	4,575	3,950	△13.7%
車両の使用	2,682	2,440	△9.0%
下水等の処理	1,477	1,459	△1.2%
合計	70,932	61,515	△13.3%

### 計画の進捗状況

#### 温室効果ガス総排出量



#### 排出要因の構成比



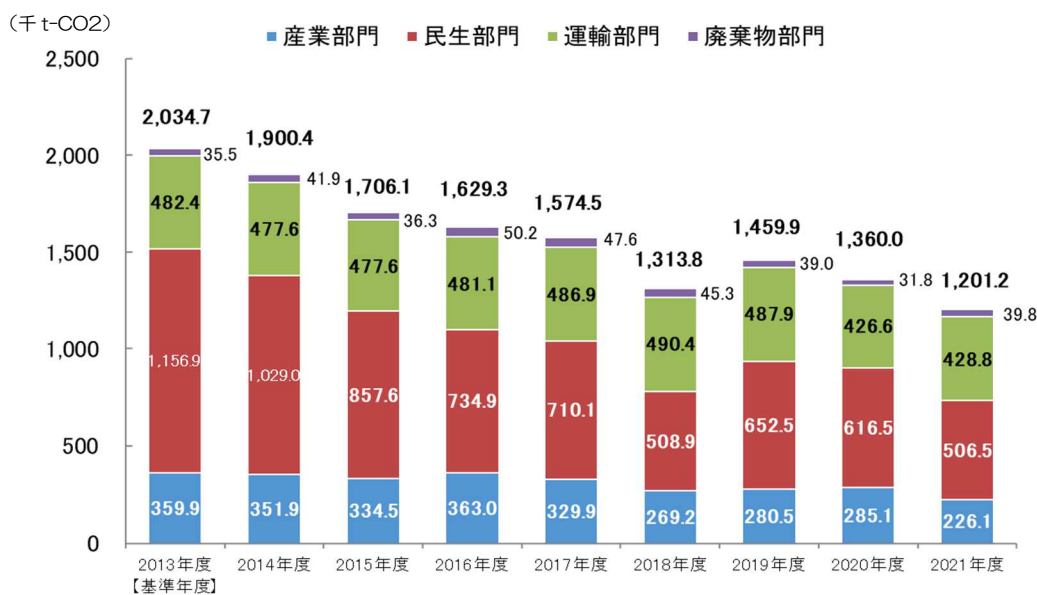
2022年度の温室効果ガス排出量は、71,780t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度の2013年度と比べると、1.2%増加しています。主な要因は、最も排出要因の割合が大きい廃棄物の焼却において、焼却量は横ばいであるものの、プラスチックが占める割合が昨年度より多かったことによります。また、本市が電力を購入している電力会社のCO<sub>2</sub>排出係数が上昇したため、電力使用量は減少しているものの、温室効果ガス排出量が増加しました。

# 第2次佐賀市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

## 計画の概要

1. 目的 地球温暖化対策が、温室効果ガスの排出抑制だけでなく、防災や減災、地域資源の活用など、地域の魅力向上につながり、環境・経済・社会の統合的な向上に資するような施策の推進を図る。
2. 計画期間 2019年度から2030年度までの12年間
3. 基準年度 2013年度
4. 対象区域 佐賀市全域
5. 対象となる温室効果ガス 二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン類
6. 温室効果ガス排出量の削減目標 2030年度までに2013年度比で27%（551.4千t-CO<sub>2</sub>）の削減  
 ※2020年10月に「ゼロカーボンシティさがし」を表明し、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すため、2030年度の削減目標も見直しを予定しています。

## 佐賀市の温室効果ガスの排出量の推移



## 計画の取組内容

温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、温暖化の影響に対して自然や人間社会の在り方を調整する「適応策」の2つの方向性で進めていきます。



緩和策	①再生可能エネルギーの導入と利用の最適化 ②家庭、事業活動での省エネの促進 ③地域環境の整備・向上 ④廃棄物の発生抑制と循環型システムの普及
適応策	①農林水産業 ②水環境・水資源 ③自然生態系 ④自然災害 ⑤産業・経済活動 ⑥健康 ⑦市民生活

資料：「温暖化から日本を守る 適応への挑戦 2012」、環境省

# 省エネルギー・再生可能エネルギー

佐賀市では、市民、事業者を対象として、省エネルギー行動の実施、再生可能エネルギーの導入を啓発することにより、エネルギー消費量の削減、エネルギーの創造を進めています。

また、市施設でも省エネルギー、再生可能エネルギーを推進する取り組みを行っています。

## 省エネルギー設備の普及推進

### LED 照明の普及推進

長寿命で消費電力が少ない「LED 照明」の普及推進をしています。地域で防犯灯の新設・補修をされる際、LED防犯灯については助成を行っています。



【令和5年度実績】新設83灯、補修47灯

## 市施設の省エネルギー・再生可能エネルギー推進の取り組み

市役所自身も省エネルギー行動の実施や再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。

### 小中学校の省エネ改修

蛍光水銀ランプを使用している春日北小学校の屋内運動場及び昭栄中学校の校舎・屋内運動場の照明器具のLED化を行い、使用する電気を減らせるようにしました。

【令和5年度実績】2校 春日北小学校、昭栄中学校

### 市役所の省エネ・省資源化の取り組み

★コンビニエンスストア等での証明書発行や市税納入時の口座振替利用を促進し、申請書や納付書の削減による省資源化を目指しています。

【令和5年度実績】

- ・ コンビニエンスストア等での証明書交付割合 38.1%
- ・ 口座振替加入者の割合

市県民税 24.4%・固定資産税 40.7%・軽自動車税 14.6%

★ICT を活用して会議資料の印刷部数を減らすなど、ペーパーレス化を推進しています。



【写真】本庁舎1階のマルチコピー機

# 省エネルギー・再生可能エネルギー

## 市役所の再生可能エネルギー導入の取り組み

## 市施設に導入した主な再生可能エネルギー

これまでに市施設に導入した主な再生可能エネルギー発電設備は、次のとおりです。

導入年度	設備を導入した施設	設備の種別	設備の規模
平成 14 年度	清掃工場	廃棄物発電	4,500kW
平成 22 年度	市立図書館	太陽光発電	30kW
平成 23 年度	下水浄化センター	消化ガス発電	400kW
平成 23 年度	本庁舎東側駐車場 (公用電気自動車の充電に活用)	太陽光発電	3.4kW
平成 24 年度	神野第 2 浄水場	太陽光発電	100kW
平成 24 年度	市立小中学校 (兵庫小学校、成章中学校)	太陽光発電	11kW×2 校
平成 25 年度	市立小中学校 (10 校。屋根貸しによる民間整備)	太陽光発電	728.68kW (10 校分合計)
平成 26 年度	本庁舎	太陽光発電	40kW
平成 26 年度	清掃工場	小水力発電	17.7kW
平成 23 年度～ 令和 5 年度	市立公民館 (南川副公民館、嘉瀬公民館、春日北公民館、 神野公民館、新栄公民館、久保泉公民館、 若楠公民館、松梅公民館、大詫間公民館、 久保田公民館、中川副公民館、勸興公民館、循 誘公民館、川上公民館)	太陽光発電	約 10kW×14 館
平成 30 年度	洞鳴の滝ふれあい館	小水力発電 太陽光発電	2.8 kW 4.4kW
令和 4 年度	下水浄化センター	消化ガス発電	200kW (令和 5 年度稼働)

## 下水浄化センターでの消化ガス発電と廃熱有効利用

下水処理の過程で発生する消化ガスを燃料として発電し、その電気を下水処理設備の機器の運転に使用します。併せて、発電設備の余熱を利用した消化槽の加温を行い、熱効率の向上を図っています。

■発電設備の規模 600kW (25kW×24 台)

■発電実績 (令和 5 年度)

自家発電量 4,148,200kWh/年

下水浄化センターの使用電力の約 50%を補っています。



[写真] 下水浄化センターの  
消化ガス発電システム

※ CO<sub>2</sub> 排出削減の環境価値は、「グリーン電力証書」の購入者である日本企業へ帰属されています。

この取り組みは、「国土交通大臣賞 循環のみち下水道賞」「日本水大賞未来開拓賞」

「低炭素杯 2017 グランプリ」「第 6 回 GKP 広報大賞グランプリ」を受賞しています。

# 省エネルギー・再生可能エネルギー

## 清掃工場での小水力発電導入、電力の地産地消

清掃工場では、ごみの焼却時に発生する余熱を利用した廃棄物発電及び清掃工場内の機器冷却塔から流れる冷却水の有効落差を利用した小水力発電を行っています。

これらの発電設備により発電した電気は、清掃工場での自家消費以外に、健康運動センター、市立小中学校51ヶ所及び公民館・図書館・市役所等の市内公共施設66ヶ所にも供給し、電力の地産地消を図っています。（供給箇所数は令和6年3月末現在）



[写真] 清掃工場の小水力発電システム



■ 発電設備の規模	廃棄物発電	4,500kW
	小水力発電	17.7kW
■ 発電実績（令和5年度）		
・ 自家発電量	29,095,400kWh/年（廃棄物発電）	
	89,711kWh/年（小水力発電）	
・ CO <sub>2</sub> 排出量削減効果	約12,744t/年（廃棄物発電）	
	約39t/年（小水力発電）	

※CO<sub>2</sub> 排出量削減効果は、令和5年度の九州電力（株）の調整後排出係数 0.000438 t-CO<sub>2</sub>/kWh を用いて換算

## 洞鳴の滝ふれあい館での小水力発電、太陽光発電

洞鳴の滝では平成30年、再生可能エネルギー啓発の一環として、この滝の落差を活かした小水力発電が整備されました。小水力発電機はプロペラ水車という形式で、上流から取水した水でプロペラを回転させ、発電機の軸を回転させて発電します。同敷地内には太陽光発電も設置し、発電した電力は電力会社を通して活用されています。

また、洞鳴の滝ふれあい館（多目的室）も備えており、再生可能エネルギー等のパネルを設置し、環境学習や地域の活性化を目的とした集会等にもご活用いただけます。



洞鳴の滝

■ 発電設備の規模	小水力発電	2.8kW
	太陽光発電	4.4kW
■ 発電実績（令和5年度）		
・ 自家発電量	6,848.4kWh/年（小水力発電）	
	5,334kWh/年（太陽光発電）	



小水力発電機（プロペラ水車）

# 省エネルギー・再生可能エネルギー

## 東よか干潟ビジターセンターひがさすでの地中熱利用

地中の温度は、季節や天気に関係なく、年間を通して一定の温度に保たれています。ひがさすでは、夏は冷たく、冬はあたたかく感じる地中熱を空調に利用することで、消費電力量を抑え、二酸化炭素排出量の削減を図っています。



【令和5年度実績】

消費電力削減量：13592.4kwh

二酸化炭素排出削減量：7.87 t-CO2

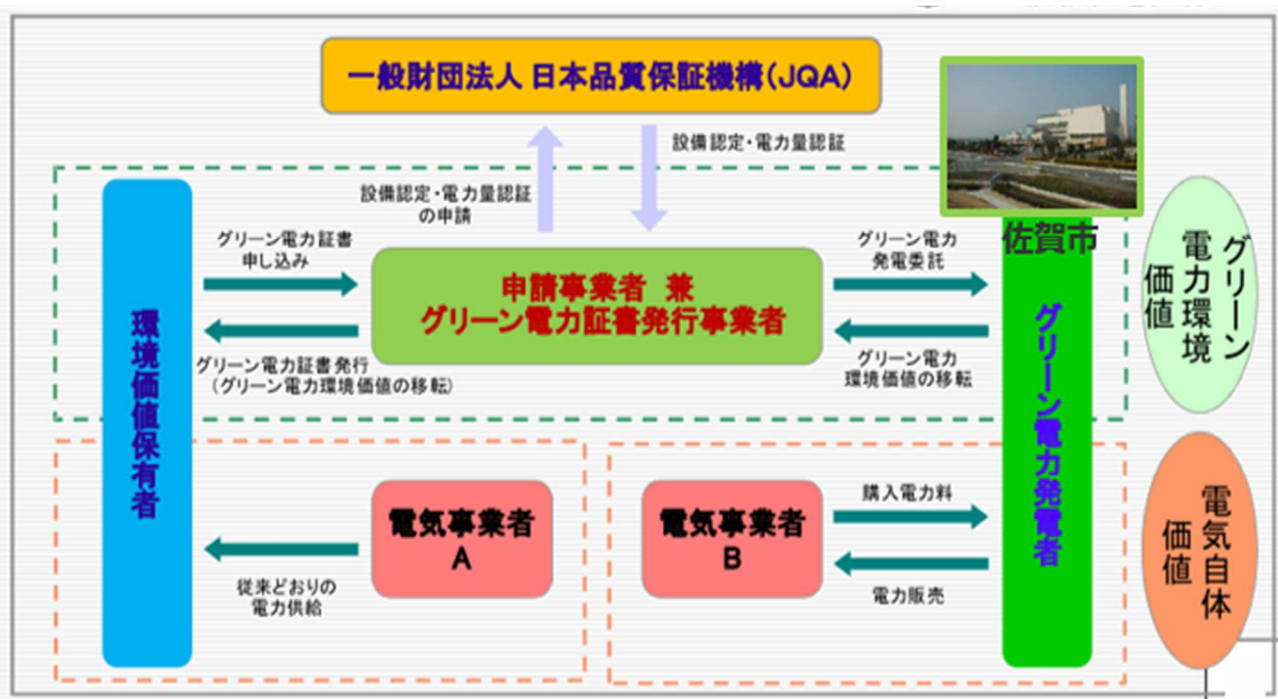
## 学校施設屋根貸しによる太陽光発電

小中学校の校舎・体育館等の屋根を民間事業者へ貸し出しており、民間事業者によって設置された太陽光発電システムによる発電が行われています。

## グリーン電力証書の販売

「グリーン電力証書」とは、グリーン電力の環境価値が証書になったものです。

「グリーン電力証書」の発電設備として佐賀市清掃工場が認定されており、企業等は証書を購入することで、CO2 排出量を削減することができます。証書の販売売上は佐賀市の歳入となり、市の脱炭素の取り組みに活用されています。



# 環境にやさしい交通手段の普及

## 市営バスの取り組み

### ■ 高品質バイオディーゼル燃料(HiBD)の使用

平成24年より、使用済み天ぷら油を精製したバイオディーゼル燃料を使用したバスの運行を開始しましたが、排出規制に伴い使用することができなくなったため、令和2年度からは、排出規制に対応した、高品質バイオディーゼル(HiBD)燃料を、軽油と混合し市営バスの燃料として使用しています。



### ■ ソーラー発電式LED照明の設置

市営バスでは、「ソーラー発電式LED照明」をバス停に設置しています。この照明は、太陽光で発電した電気で蓄電池を充電し、夜間の照明に利用するものです。

バス停や時刻表の見えにくさを改善するため、現在市内に25箇所設置しています。

環境にやさしい照明は、バス運行後も点灯しているので防犯灯の役割も持っています。



## 電気自動車の普及促進

走行時に二酸化炭素を排出しない、電気自動車の普及を促進するため、充電環境の整備を行っています。

### ■ 電気自動車用急速充電設備の設置及び供用

平成26年度に、次の4施設に24時間利用可能な急速充電器設備を設置し平成27年度から供用開始しています。(令和5年1月末に民間譲渡しましたが、充電サービスは継続しています)

- ・ 諸富文化体育館
- ・ 道の駅大和そよかぜ館
- ・ 富士支所
- ・ 久保田特産物直売所味らん館

※利用には、急速充電器用カードか、充電器利用の会員登録が必要です



# 地産地消

地産地消とは、「その土地でとれたものを、その土地で消費すること」を言います。

市内の森林から産出された木材を市内で使用することにより、地場産業の活性化と森林の保全につながります。

また、私たちは多くの食料を海外からの輸入に頼っています。遠くから食料を運んでくるには、多くのエネルギーが必要となります。このエネルギーを「移動重量×移動距離」で測定する考え方を「フードマイレージ」と言います。

地産地消を実践することは、フードマイレージを抑えることにつながります。

## 地場産（市産材・地域材）の木材の利用

公共建築物の新設・改修に際し、柱や床、壁など内外装の木材利用を拡大促進するため、佐賀市建築物木材利用促進方針に沿って、市産材の優先使用を促進します。

令和5年度に完成した本庄こども園や西川副公民館での地場産材の採用率は、62%以上でした。

佐賀市が発注する木製の護岸工事にも地場産木材の使用を推進しています。

令和5年度に施工した木製の護岸工事での地場産材の採用率は100%でした。



本庄こども園



西川副公民館

# 地産地消

## ファーム・マイレージ運動の推進

令和5年度も、「うまさがない」を集めた消費者を対象に、佐賀市産の旬の農産物を抽選でプレゼントするキャンペーンを4回実施し、市産農産物の消費を促進しました。

令和5年度の「うまさがない」の流通数は177,9万枚になります。



シールを貼った市産農作物が購入できるお店（「ファーム・マイレージ運動」協力店）は、41店舗あります。（令和6年3月末時点）



「ファーム・マイレージ運動」  
協力店ののぼり旗



「うまさがない」を貼った市産農作物



プレゼントキャンペーン商品の一例

## 地産地消による森林・農地の保全

佐賀市の面積の約70%を占める森林や農地には、次のような多面的機能があり、私たちは、その恩恵を受けています。

CO<sub>2</sub>の吸収・  
大気の浄化機能

森林や農作物は、光合成により、二酸化炭素を吸収、炭素を固定化し、大気を浄化しています。

水源のかん養・  
水質の浄化機能

森林の土壌や農地が降雨を一時的に貯留することにより、河川の水量を安定させるとともに、土壌をゆっくり浸透することにより、水質を浄化しています。

気温を和らげる  
機能

森林や農作物の蒸発散は、熱を吸収し、気温を和らげる効果があります。水田は、水面からの水の蒸発による空気の冷却も加わり、ヒートアイランドを抑制する効果があります。

生物多様性  
機能

森林や農地は、多様な生物の生息の場となっており、自然の生態系の保全に寄与しています。

これらの機能を維持していくには、林業、農業が継続して営まれ、森林や農地が保全されることが必要です。このため、市の林業や農業を支え、守っていく“地産地消”に取り組むことは、私たちの生活環境を守ることにもつながっているとと言えます。

# 佐賀の森の木になる紙によるCO<sub>2</sub>削減の取組

## コピー用紙（木になる紙）の導入について

佐賀市では、九州の間伐材を配合したコピー用紙「木になる紙」を平成21年6月から全庁的に導入しています。

このコピー用紙は、間伐材活用によるCO<sub>2</sub>の削減効果で環境保護に貢献する他、購入費の一部が間伐材を出荷した森林所有者に還元されるため、所有者の森林整備の促進につながるのと同時に、木材の地産地消にもつながっています。

全部署一斉に間伐材を使用したコピー用紙を導入している佐賀市の取り組みが評価され、平成23年度の「第13回グリーン購入大賞」で最高位の環境大臣賞に選ばれました。



○令和5年度購入実績

区分	1箱の内容	箱数
A3用紙	1箱（500枚×3包）	1,098箱
A4用紙	1箱（500枚×5包）	11,591箱
B4用紙	1箱（500枚×5包）	1,163箱
B5用紙	1箱（500枚×5包）	1,011箱

その後、地産地消の効果をより高めるため、平成26年度以降は、配合する間伐材は地元佐賀産のみとする「佐賀の森の木になる紙」導入へと発展させ、現在は「コピー用紙」の他、広報誌（「市報さが」、「議会だより」）や公用封筒などにも採用しています。

また、「（佐賀の森の木になる紙）」は元々「カーボン・オフセット」付き商品のため、購入するだけで国内のCO<sub>2</sub>削減に貢献してきました（約480ト：令和5年度迄の累計）。

そして、令和3年度からは、購入実績に応じて無償で取得したカーボン・クレジットを、佐賀市のCO<sub>2</sub>総排出量から差引く（オフセットする）取組みを新たに開始し、さらにCO<sub>2</sub>の直接的な削減に活用しています。

令和5年度分のオフセット量 26トン（令和4年度購入実績相当分）

このような取組みの継続性と、森林保全に加えCO<sub>2</sub>削減、還元金支給、雇用創出、官民協働などの多方面へ好影響をもたらしたことが評価され、令和4年度の「第23回グリーン購入大賞」で最高位の「農林水産大臣賞」に選ばれました（2回目の大臣賞受賞）。

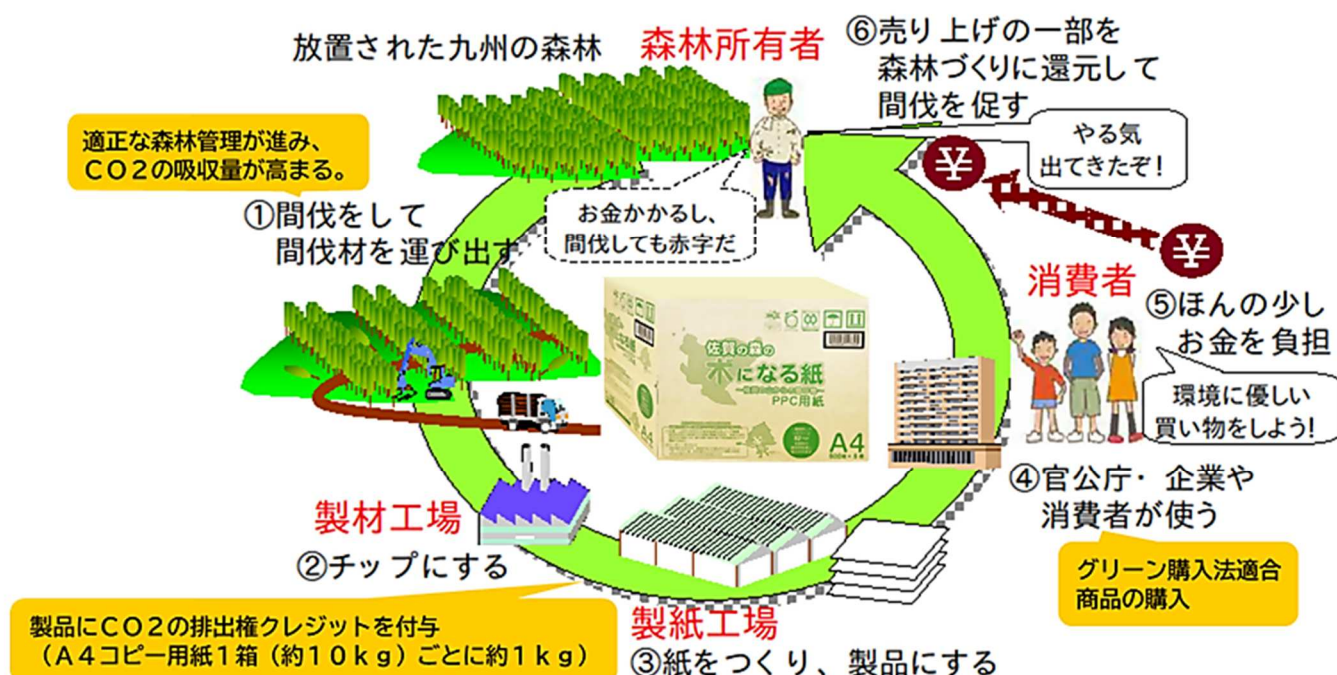


# 佐賀の森の木になる紙によるCO2削減の取組

## 複合的な政策効果

市の公共調達政策として、「木になる紙」をこれまで15年間継続して購入・使用してきたことが、多面的な政策効果を導き出しています。次に示すのは、もし導入していなかったならば得られなかった効果の一例です（前ページ記載分以外：令和5年度迄の累計）。

- 間伐が進んだ佐賀市の森林面積：約930ha
- 間伐推進による森林整備の進展がもたらすCO<sub>2</sub>の吸収量：約4,230トン
- 間伐材を拠出した森林所有者へ支給される売上代金の一部（還元金）：約2,410万円



## SDGs・環境学習について

市内の小中学校現場での紙使用や「木になる紙ヒコーキ大会」の開催など一般市民向けの環境意識の啓発をおこなっています。

## 全国への情報発信

- GPN ホームページへメッセージを掲載  
【環境月間 特別企画⑥】第23回グリーン購入大賞 受賞団体よりメッセージ  
<https://www.gpn.jp/info/gpn/fa65617b-5118-441c-ab55-8efc89d0ca43>  
【SDGs 特別企画】「サステナビリティに取り組む重要性・必要性」GPN 会員団体からメッセージ  
<https://www.gpn.jp/info/gpn/16785c55-faac-40a7-aea5-7c726247d657>
- 『SDGs 自治体白書 2023-2024』への寄稿  
紙の地産地消商品「木になる紙」の公共調達による地域振興や脱炭素への取組

# バルーン大会のCO<sub>2</sub>排出対策

晩秋の佐賀平野の空に100機を超えるバルーンが集まる「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」は、例年、国内外から80万人以上のお客様が訪れるアジア最大の熱気球大会です。この大会の開催による環境への負荷を軽減するために、次のような取り組みを行っています。



## 公共交通機関の利用促進

来場者の自動車利用によるCO<sub>2</sub>排出を削減するため、パンフレットや雑誌記事、広報番組などで公共交通機関を使った来場を呼びかけました。



JRバルーンさが駅  
(大会期間中の臨時駅)



シャトルバス



## カーボンニュートラル燃料の使用

バルーン（熱気球）に使用する燃料として、カーボンニュートラルLPGを使用しました。

### 【カーボンニュートラル燃料とは】

LPGの採掘～燃焼工程で発生する温室効果ガスを世界各国での環境保全活動により相殺し、LPG使用によるCO<sub>2</sub>排出を実質ゼロにすることができるLPGです。

